

2024 年度秋季大会実施報告

大会・企画委員会，LOC（東京大学地震研究所，新潟大学）

秋季大会実施報告（大会・企画委員会）

2024 年度秋季大会は，新潟市の朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにおいて，10 月 21 日（月）～10 月 23 日（水）に開催され，713 名（会員 599 名，非会員 114 名）の参加がありました。今年度の秋季大会では，通常セッションに加え，「情報科学との融合による地震研究の加速」，「令和 6 年能登半島地震」の 2 件の特別セッションと，「2024 年 8 月 8 日 日向灘の地震とその影響」の 1 件の緊急セッションが開催され，活発な議論がなされました。なお，プログラム確定後の講演発表数は口頭 226 件，ポスター 205 件の合計 431 件でした。

また，日本地震学会賞，論文賞，若手学術奨励賞の授賞式および記念講演も行われました。今年度に限り 2023 年度と 2024 年度の 2 年分の授賞式を行いました。2023 年度分として日本地震学会賞 1 名，若手学術奨励賞 3 名，技術開発賞 3 名，2024 年度分として日本地震学会賞 1 名，若手学術奨励賞 3 名，技術開発賞 2 名の受賞者による記念講演を大会 1 日目の午後に設けました。大会 3 日間ともに 4 会場同時並行で口頭セッション（受賞記念講演を除く）を行い，口頭発表の時間は原則として 1 件あたり 15 分（講演 12 分，質疑 3 分）としました。なお，ポスターセッションは 1 日目と 2 日目の口頭セッション終了後にコアタイムを設けて実施しました。

講演申込，早期参加登録と，参加登録料及び投稿料の支払いはウェブサイト上で受け付けました。今年度も参加者に名札を印刷・持参して頂く方式としました。また，講演予稿集は電子版のみとし，早期参加登録をして頂いた会員には，予稿集ダウンロードのための URL とパスワードをプログラム公開時期にあわせて連絡しました。

今年度も，学生による優れた研究発表を奨励し，研究発表技術の向上を目的とした「学生優秀発表賞」を設けました。口頭発表とポスター発表のどちらも対象としました。今年度の審査員には理事，代議員，大会・企画委員会委員から 50 名が選出され，のべ 95 件の発表を審査しました。選考の結果，10 名の受賞者を決定しました。

また今年度より，学生やポスドクなどの若手をターゲットとしたランチョンセミナーを，大会・企画委員会主催で実施しました。「ランチョンセミナー 1：プレゼン入門 2024」（京都大学防災研究所 山田真澄准教授）を 2 日目に，「ランチョンセミナー 2：地震研究者ってどんな仕事？先輩にリアルな経験を聞いてみよう！」（気象庁 野田朱美調査官，小堀鐸二研究所 小林広明課長）を 3 日目に行いま

した。延べ 100 名以上が参加し，質疑応答も活発に行われるなど，大いに盛り上がりを見せました。

秋季大会の準備，運営面では，東京大学地震研究所ならびに新潟大学の地震学会員からなる LOC の皆様に全面的にお世話になりました。LOC の皆様の献身的なご尽力により，新潟大会が円滑に運営されたことに，大会・企画委員会から心よりお礼を申し上げます。

さて，来年度の秋季大会は福岡市の福岡国際会議場において，2025 年 10 月 20 日（月）～10 月 22 日（水）の日程で開催される予定です。今年度に引き続き，会員の皆様の積極的な投稿・参加を期待しております。

最後になりましたが，各セッションの座長および学生優秀発表賞の審査員をお引き受けくださった皆様のご協力に感謝申し上げます。

LOC からの報告

1. 秋季大会

2024 年度秋季大会は，新潟県新潟市の朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで開催されました。運営を担う LOC は，東京大学地震研究所を中心とし，開催地の新潟大学を加えたメンバーで構成されました。

朱鷺メッセでの秋季大会の実施は 2014 年度以来 10 年ぶりです。本年度の LOC には，当時の運営に関わったメンバーも多く存在しています。一方で，会場の選定にあたっては，朱鷺メッセにこだわらず，東京都内や他の地方都市の会場も候補として検討しました。選定プロセスでは，会場の構成や費用，周辺の宿泊施設や飲食店の充実度など，多方面から比較・検討を行い，いくつかの候補地への現地視察も実施しました。最終的には大会会場内の利便性，すなわち各会議室の収容人数や会場内の動線などを重要視し，朱鷺メッセでの再開催を決定いたしました。とくにポスター会場の広さは特筆すべき点であり，大会中 3 日間ポスターを貼りっぱなしにできる点は他会場にない魅力でした。「同じ会場では新鮮味が欠ける」という懸念もありましたが，10 年という時間を経ていることから，ある種の懐かしさを感じとっていただけるだろうとの期待もありました。

本年度の大会では，例年と異なり，2 年度分の受賞記念講演を実施する必要性がありました。このため，膨らんだ講演時間をどのように確保するのが大きな課題となりました。各年度の受賞記念講演を複数の会場で並行して行う案，通常的口頭発表の講演数を減らす案など，様々な選択

肢が検討されました。検討過程では、大会・企画委員会や表彰委員会、理事会などから寄せられた意見を参考にしつつ、最終的に2年度分の受賞記念講演を大会初日の午後にまとめて行う方針を大会・企画委員会に提案しました。この方針に合わせ、「大会開始時刻を早める」、「終了時刻を遅らせる」、「休憩時間を短縮する」ことにより、一般講演者の口頭発表の数を大幅に減らさずに済むよう配慮しました。全体としてスケジュールがタイトになり、参加者の皆様には多少なりともご不便をおかけしたかもしれません。それでも、大会の円滑な運営という大きな視点で見れば、この調整は最善の選択であったと考えています。

本年度の大会では、大会2日目の夜にホテル日航新潟にて懇親会を実施しました。今年度の新たな試みとして、予稿投稿に使用したオンラインシステムを活用して、懇親会の参加申し込みや決済を行いました。この新たな仕組みにより、大会当日の現金のやり取りが不要になり、参加者の人数を事前に正確に把握できるといった大きな利点が得られました。一方で、システムの仕様に起因して、懇親会の申し込みと大会参加登録を同時に行えないなど、若干の不便さも見受けられました。それでも、全体的にはこの仕組みが運営の効率化に大きく寄与したと感じています。今年度浮上した問題点は次年度以降の運営に引継ぎ、さらなる改善につなげたいと考えています。懇親会には定員である130名の申込があり、会場は終始賑わいを見せました。当日は新潟県防災局長にもお越しいただき、冒頭にご挨拶を賜りました。その後、参加者は新潟の特産品を活かした料理と飲み物を楽しみながら、和やかに活発な交流を深める場となりました。

最後になりますが、秋季大会の開催に際して、新潟大学の学生の皆さんにアルバイトとして運営をご協力いただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。ご協力いただいた学生のほとんどは学会に初めて触れる方々でしたが、業務内容を迅速に理解し、円滑な運営をサポートしていただきました。また、大会の関係者ならびに参加された皆様方にもお礼申し上げます。皆様のご支援とご協力により、秋季大会を無事に成功させることができました。次年度以降も、LOCの活動にご理解いただき、引き続きのご支援をいただけますようお願い申し上げます。

2. 一般公開セミナー

2024年度の一般公開セミナーは、新潟県、新潟市、新潟大学、東京大学地震研究所の後援のもと、秋季大会の前日に、朱鷺メッセで以下の内容で開催されました。

タイトル：「新潟から神戸にかけておこる被害地震に迫る—2024年能登半島地震から考える—」

日時：2024年10月20日（日）13:30～16:30

（開場13:00）

場所：朱鷺メッセ 4階 国際会議室

プログラム：

「新潟-神戸ひずみ集中帯と内陸地震発生の謎に迫る」

名古屋大学 教授 鷲谷 威

「令和6年能登半島地震と新潟県の地震」

金沢大学 教授 平松良浩

「今後の発生が想定される地震被害にいかにかにそなえるか—2024年能登半島地震の実際から考える—」

新潟大学 教授 田村圭子

2024年は1964年新潟地震から60年という節目にあたり、新潟県や周辺地域で発生する被害地震について、最新の知見をわかりやすく地域の皆様にお伝えすることを主眼にセミナーを企画しました。具体的には、近年のGNSS観測や解析の進展によって新たに発見された、新潟から神戸にかけてのひずみ集中帯や、2017年に能登半島で発生した群発地震活動について、名古屋大学の鷲谷教授と金沢大学の平松教授にそれぞれご講演をお願いしました。また、防災の分野で広く活躍されている新潟大学の田村教授には、地震被害への備えについて具体的な内容を交えたご講演をお願いしました。各講演の内容が大まかに決定した後の2024年1月1日、能登半島で地震が発生しました。このことを受けて、セミナーのタイトルに「2024年能登半島地震から考える」という文言を加えることとなりました。セミナーの内容はさらに現実味を帯び、地域の皆様にとって一層関心の高いものになっただろうと思います。

より多くの人に一般公開セミナーへ足を運んでもらうことは、LOC一同にとって大きな課題でした。幸い、セミナーの重要性が認められ、科学研究費助成事業の研究成果効果促進費（課題番号：JP24HP0007）に採用されました。限られた予算内で効果的な告知活動を行うため、地元の広告代理店と相談し、セミナーのチラシ（ポスター）を折り込み広告として各世帯に投函することを決定しました。この広告費を捻出するため、ポスターのデザイン作成は業者に注文せず、LOCのメンバーが自ら作成するなど、コスト削減に努めました。

こうした努力の結果として、セミナー当日には109名もの参加者を迎えることができました。各講演の後には活発な質疑応答が交わされ、来場者が地震に対して高い関心を持っていることが窺えました。また、来場者を対象にアンケート調査を実施し、61名（およそ半数）の方々から回答を得ました。参加者の年齢層や、講演のわかりやすさや長さについての評価など、今後のセミナー運営に役立つ貴重な情報を収集することができました。特に、アンケートの回答から、参加者のおよそ4人に3人が、投函されたチ

ラシを見てセミナーに来場したと推定され、チラシ投函が非常に効果的であったことが裏付けられました。一方で、若い年齢層（40代以下）の参加者は全体の10%程度にとどまり、この点が課題として浮かび上がりました。SNS等を活用した広報など、若い世代に響く現代的なアプローチを今後模索する必要性を感じています。

末筆ではありますが、本セミナーでご講演いただいた講師の方々に心より感謝申し上げます。また、学会事務局の方々、新潟大学のアルバイトの学生の皆様にも運営をご協力いただきました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

2024年度秋季大会 LOC 構成員（秋季大会当日の時点）：
木下正高・悪原岳・飯高隆・五十嵐俊博・一瀬建日・小原一成・蔵下英司・小林健太・篠原雅尚・竹尾明子・武村俊介・中川茂樹・西田究・森重学・山田知朗・綿田辰吾

○出展団体（順不同）

東京大学地震研究所

白山工業株式会社

株式会社クローネ

株式会社ジオシス

ソフトバンク株式会社 / ALES 株式会社 / ソフトバンク

独自基準点データの宇宙地球科学用途利活用コンソーシアム

SmartSolo Scientific

イネープラー株式会社

株式会社 勝島製作所

株式会社 ホームサイスマメータ

JpGU: Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)

誌

Earth, Planets and Space 誌

Springer

2024 年度秋季大会 ランチョンセミナー実施報告

大会・企画委員会

2024年10月21日（月）～23日（水）の日程で新潟市の朱鷺メッセで開催された日本地震学会2024年度秋季大会において、学生やポストドクをはじめとする若手を対象としたランチョンセミナーを実施しました。今回は2つのセミナーを行い、延べ100名以上の参加者が集まりました。実施後にアンケートを行いました。両セミナーとも回答者全員から「非常に参考になった」もしくは「参考になった」と高い評価をいただきました。

まず2024年10月22日（火）のランチタイムに、「ランチョンセミナー1：プレゼン入門2024」を行いました。山田真澄准教授（京都大学防災研究所）に登壇いただき、効果的なプレゼンテーションを行うためのコツを基本的なものから応用的なものまで教えていただきました。質疑応答も活発に行われるなど、大いに盛り上がりを見せました。

2024年10月23日（水）のランチタイムに、「ランチョンセミナー2：地震研究者ってどんな仕事？先輩にリアルな経験を聞いてみよう！」を行いました。現役の研究者である野田朱美調査官（気象庁）と小林広明課長（小堀鐸二研究所）の2名から、それぞれのキャリアパスについて語っていただきました。キャリア選択のポイントやライフワークバランスについても具体的な事例が紹介され、学生や若手研究者にとって貴重な機会となりました。

秋季大会におけるランチョンセミナーは、若手研究者支援の一環として今後も継続して実施予定です。



ランチョンセミナー1の様子



ランチョンセミナー2の様子①



ランチョンセミナー2の様子②